

東シナ海の真ん中でアオノリ発見

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 水産総合研究センター
	公開日: 2024-06-24
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 長谷川, 徹
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2008585

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



調査航海のエピソード

— 東シナ海の真ん中でアオノリ発見 —

東シナ海海洋環境部生物環境研究室長 長谷川 徹

東シナ海の広い海原を航海していると、結構いろいろなものを見かけます。そのほとんどは漁船などの船舶ですが、イルカやウミガメなどの海洋生物から前線を伴った豪雨や台風などの自然現象まで様々です。潮境付近には流れ藻や海洋ゴミなどもよく見かけます。

今年はそんな中でも、大変珍しいものを発見しました。陽光丸の平成20年度第6次航海(7/10～7/18)で、東シナ海の丁度真ん中あたり(図1の●印)を調査中のことでした。海面に大きな緑の塊が点在しているではありませんか(図2)。それは、洋上に浮かぶ芝生のようなでした。青い海に緑が映えて美しく、ここが大海原の真ん中だとはとても想像できない風景でした。

その後の情報によると、この緑の塊は「アオノリ」の一種とのことです。中国のオリンピック余話で、ヨットレース会場となった青島でスジアオノリが異常発生し、海岸一帯が緑でおおわれ、海面も見えないくらいの情景がテレビ放映されたのが印象的でした。中国・青島のスジアオノリは、中国大陸起源の沿岸水に乗って南

東へ流れ、長江河口域の東方で沖だしされた模様です。中国・青島市北東の乳山市沖を漂流するスジアオノリの動きは日本の人工衛星「だいち」の画像でも見る事ができる程、大規模な現象であったようです(JAXA ホームページALOS 画像情報に基づく)。

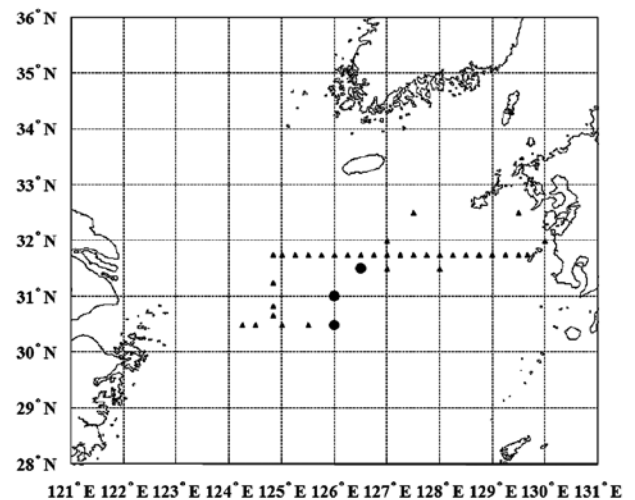


図1 調査点図(陽光丸平成20年度第6次航海)



図2 東シナ海に浮かぶアオノリ的一种